

(第7号様式)

平成30年度 NPO団体ステップアップサポート事業報告書

団体名	NPO法人ねこの糸	
<p>1. 事業内容について、進捗状況報告書をまとめるような形で記載してください。</p> <p>4月から打ち合わせを行い、掃除等をすすめながら広報活動を並行して開始。 新聞の記事により一気に知名度が上がり多数の相談がありました。</p> <p>7月8日に会議を行い、シェルターは常時保護の場所ではなく、一時保護場所とする方針を決定。</p> <p>9月から施設改修工事を開始。1月にはエアコン設置まで完了し、相談を受けて保護したい「猫の多頭飼育崩壊」現場からの猫を飼育開始。 シェルター内で世話をしつつ性格や猫同士の相性を見て、現在はそれぞれ預かりボランティアさん宅に移動ができました。</p> <p>相談のあった多頭崩壊、高齢者飼育猫等についての相談を多数受けながら、今後は人間側のサポートも重要であると考え、人間の医療関係者との連携を取れるよう話し合いを進めました。</p>		
<p>2. 事業を実施している様子等が分かる写真を4枚以上添付してください。</p>		
		





3. 来年度以降、事業終了後も、その効果や結果が継続されるために、組織としてどの様に、体制や対応をしていくのかについて記載してください。

今回、シェルターを作るにあたり、新聞記事などを見た方からの相談が多く寄せられました。

特に目立ったのは、高齢者が死亡又は退院の目途の立たない入院により行き場がなくなる猫が発生するというケースでした。

常日頃からそのような相談に対応している病院のソーシャルワーカーさんと話をし、病院で患者から猫の問題についての相談があった場合に、人間側の医療、福祉関係者と当法人との連携を取って行けないかと考えています、

猫の飼育により、人間の福祉が失われているケースを主として このシェルターへの猫の一時保護を行い、その間に飼い主の病気治療や、猫の今後についての検討を行えるようにしていきます。

現在は猫については「殺処分」とするしかないんだというあきらめにも近い意見が主流となり、実際に処分される猫やそれを嫌がって自分の治療をためらってしまう飼い主さんもいます。そのような方々の支援が円滑にできるようになれるようにと思います。

具体的なシェルターの活用法としては

- ①相談を受ける
- ②一時保護が必要と判断した場合、猫達を一斉にシェルターに移動（最大15匹程度）
- ③シェルターでお世話しながら、猫同士の相性や基本的な検査や処置、躰を行う
- ④猫同士の相性を確認しながら、1～3匹ずつ預かりボランティアさん宅へ移動させる。
※シェルターでケージの中で過ごすよりも、ゆっくりと家庭内でお世話してもらうため。
- ⑤飼い主の意向に沿う形で、退院までの一時預かりや、新しい飼い主探しを行う。